

大学・高専機能強化支援事業（支援 1：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）
実施状況報告書

選定年度	令和6年度	学校コード	F117310105460	設置等組織名	情報デザイン学部（経営情報学科、環境デザイン創成学科）、メディア情報学部（メディア情報学科、心理情報デザイン学科）、情報理工学部（情報工学科、知能情報システム学科、ロボティクス学科）
大学名	金沢工業大学	設置区分	私立		
学校種	大学	都道府県	石川	事業計画名	金沢工業大学における社会実装型教育研究プロジェクトを文理探求から実践する情報専門人材の育成

1.年度別の計画及び取組状況

年度別の事業計画と取組状況、自己評価を記載してください。
当初計画から変更又は追加した取組は赤字で記載し、計画変更の承認を受けた計画については、末尾に承認日を赤字で記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応	
令和6年度			令和6年度自己評価	【2】計画を十分には実施していない。 令和6年能登半島地震の影響について一定程度は織り込んでいたものの、設計関係者や施工業者の多くが被災地支援に従事したことにより人員確保が困難となり、基本設計に基づく実施設計のフェーズにも想定以上の時間を要した。この結果、当該新築工事の着工は当初計画より約4か月遅れ、それに伴い工事の完了時期も後倒しとなった。工事の安全確保、品質の維持、作業環境の整備等の観点から、計画上の工期短縮は困難と判断し、結果として事業の遅延は不可避との結論に至った。なお、建物の機能・規模・用途に変更はなく、完成時期は遅れるものの事業の目的達成に支障は生じない見込みである。引き続き、状況の変化に応じて、柔軟かつ的確に対応してまいりたい。
令和7年度	2～① 令和7年7月 新築（新設3学部共通教育研究棟）工事を着工（20か月工期）（R7.12.24承認） 3～① 令和7年4月 新設学部開設 3～② 令和7～10年 新設学部志願者・入学者確保のための広報活動	2～① 令和7年7月 新築（新設3学部共通教育研究棟）工事を着工 3～① 令和7年4月 新設学部開設 3～② 令和7～10年 新設学部志願者・入学者確保のための広報活動	令和7年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。
令和8年度	2後 2～② 令和9年3月 新築（新設3学部共通教育研究棟）工事完成（R7.12.24承認） 3～② 令和7～10年 新設学部志願者・入学者確保のための広報活動		令和8年度自己評価	リストから選択してください。
令和9年度	2後 2～③ 令和9年4月 新築（新設3学部共通教育研究棟）開設（R7.12.24承認） 3～② 令和7～10年 新設学部志願者・入学者確保のための広報活動		令和9年度自己評価	リストから選択してください。
令和10年度	3～② 令和7～10年 新設学部志願者・入学者確保のための広報活動		令和10年度自己評価	リストから選択してください。
令和11年度			令和11年度自己評価	リストから選択してください。
令和12年度			令和12年度自己評価	リストから選択してください。
令和13年度			令和13年度自己評価	リストから選択してください。
令和14年度			令和14年度自己評価	リストから選択してください。
令和15年度			令和15年度自己評価	リストから選択してください。
認可申請 又は届出	令和6年4月 情報デザイン学部、メディア情報学部、情報理工学部 学部の設置届出予定	令和6年4月 情報デザイン学部、メディア情報学部、情報理工学部 学部の設置届出 令和6年6月 情報デザイン学部、メディア情報学部、情報理工学部 学部の設置届出の受理		
定員減又は 学部等の廃止	令和6年4月 工学部ロボティクス学科 学生募集停止の報告予定（入学定員100人、工学関係） 工学部情報工学科 学生募集停止の報告予定（入学定員200人、工学関係） 情報フロンティア学部メディア情報学科 学生募集停止の報告予定（入学定員120人、工学関係） 情報フロンティア学部経営情報学科 学生募集停止の報告予定（入学定員60人、工学関係） 情報フロンティア学部心理科学科 学生募集停止の報告予定（入学定員60人、工学関係） 工学部機械工学科 80人減員予定 （学生募集停止の報告予定（入学定員200人、工学関係）、 学部の学科の設置届出予定（入学定員120人、工学関係）） 令和7年度 工学部ロボティクス学科 学生募集停止の予定（同上） 工学部情報学科 学生募集停止の予定（同上） 情報フロンティア学部メディア情報学科 学生募集停止の予定（同上） 情報フロンティア学部経営情報学科 学生募集停止の予定（同上） 情報フロンティア学部心理科学部学科 学生募集停止の予定（同上）	令和6年4月 工学部ロボティクス学科 学生募集停止の報告（入学定員100人、工学関係） 工学部情報工学科 学生募集停止の報告（入学定員200人、工学関係） 情報フロンティア学部メディア情報学科 学生募集停止の報告（入学定員120人、工学関係） 情報フロンティア学部経営情報学科 学生募集停止の報告（入学定員60人、工学関係） 情報フロンティア学部心理科学科 学生募集停止の報告（入学定員60人、工学関係） 工学部機械工学科 80人減員 （学生募集停止の報告（入学定員200人、工学関係）、 学部の学科の設置届出（入学定員120人、工学関係）） 令和7年度 工学部ロボティクス学科 学生募集停止（同上） 工学部情報学科 学生募集停止（同上） 情報フロンティア学部メディア情報学科 学生募集停止（同上） 情報フロンティア学部経営情報学科 学生募集停止（同上） 情報フロンティア学部心理科学部学科 学生募集停止（同上）		

フォローアップ対象年度	令和7年度	大学名	金沢工業大学
-------------	-------	-----	--------

2.申請資格の確認

- i）学生募集停止中の大学
- ii）学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学
- iii）「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学
- iv）設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学
- v）大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

上記項目の申請資格の状況について、プルダウンで選択してください。（プルダウンの選択肢：すべての項目に該当していない、右の○の項目に該当している）

申請資格の状況	i)	ii)	iii)	iv)	v)
すべての項目に該当していない					

3.申請要件の取組状況

- ① 高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。□
- ② 十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。
- ③ 産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。
- ④ 特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。
- ⑤ 計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。
- ⑥ 特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。
- ⑦-1 社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。
- ⑦-2 学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。
- ⑧ 入学定員が20名以上増加する計画であること。
- ⑨ 事業計画の選定があった日から4年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）
- ⑩ 大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。
- ⑪ フェーズ3の助成期間終了時まで、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去5年間の中央値3年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せた水準以上とする計画であること。
- ⑫ 計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。
- ⑬ 選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和5年4月13日文部科学大臣認可）六（2）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。
- ⑭ 文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。

上記項目の①～⑬の申請要件について、令和7年度の取組の状況についてプルダウンで選択してください。（プルダウンの選択肢：すべての項目が要件を満たしている、右の○の項目の要件を満たしていない）

申請要件の状況	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦-1	⑦-2	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬
右の○の要件を満たしていない		○												

①～⑬の要件を満たしていない又は対象ではない項目がある場合、左欄に該当する申請要件を選択し、右欄に課題（理由）とその対応について記載してください。

項目	課題（理由）
②	令和7年度における情報系学部の入学定員充足状況については、メディア情報学部および情報理工学部が定員を満たした。一方、情報デザイン学部は充足率が0.89倍にとどまり、定員充足には至らなかったものの、前年度の0.79倍を上回った。今後は、新たな入学試験（総合型選抜（課外活動型）、一般試験中期クラス）を実施するなど、幅広い資質を有する学生層の受入れを促進し、あわせて全国47都道府県の高等学校に本学職員が直接訪問する学生募集活動を強化することにより、全学部における定員の安定的な確保と、充足率のさらなる向上を図る計画である。

⑭については、現在の状況をプルダウンより選択してください。

申請要件⑭について	現在の状況
⑭ 文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。	認定を受けておらず申請する意向もない

4.審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和7年度の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目に限らない）

- ☒ チェック a.企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
- ☐ チェック b.関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施
- ☒ チェック c.関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
(a)申請する情報系3学部では、現在連携協定を締結している地域自治体（野々市市、金沢市、白山市、加賀市、小松市、珠洲市）や企業と連携した正課教育（プロジェクトデザイン教育：PDⅡ、PDⅢ）に現行と同様に取組む。企業とは「PDⅢ（一般的には学部卒業研究）」を通した共同研究等を実施する。PBL教育の授業科目（2年次の必修科目「PDⅡ」）では、キャンパスが隣接する野々市市、金沢市から提供された地域課題に取組み、最終成果報告会を現行運用と同様に市役所で実施する。更に今後は数理・データサイエンス・AI等の情報技術を有機的に組合せた新たな取組となるPBL教育を計画する。 (c)新設する情報理工学部（情報工学科、知能情報システム学科の2学科）は、スクラップ&ビルドした工学部（情報工学科）を改組して設置する学部である。情報工学科は、学部4年次において大学院科目の履修を可能とする運用をしており、海外提携校のロチェスター工科大学(米国、RIT)との交換留学とデュアルディグリープログラム（大学院国際共同学位プログラム）を運用しており、令和4年度には国際共同学位修了生を輩出している。新設する学部学科においても、授業科目の英語化を進めることで、学部全体としてデュアルディグリープログラム（大学院国際共同学位プログラム）の計画を進める。		

【B：多様な入学者の確保に向けた取組】

- ☒ チェック a.入学者選抜における科目の見直し
- ☒ チェック b.女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
- ☒ チェック c.地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
- ☒ チェック d.社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキングへの対応）
- ☒ チェック e.留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
(a)文系・理系の併用型入試を実施するため、推薦試験（公募制）で「数学、英語の2科目必修の学力試験」から、「数学、英語、国語の3科目から2科目選択の基礎学力試験」を行う。 (b)全学部学科で「女子奨学金給付型の総合選抜入試」を実施する。入学後は、女子学生のキャリア形成支援プログラムを開発・実施する。 (c)地域の初等中等教育段階にある学校に、探究学習の支援と教科目「情報」の支援等を実施（実績：令和5年度37件）している。本学との連携協定校には、本学のプロジェクトデザイン教育とSDGs教育を実施している。今後はAI基礎・データサイエンスの基礎等の内容を含めたものとする。 (d)本学は、全学部で社会人が授業に参加し、学生を指導し共に学ぶ「社会人共学者制度」を運用している。また情報技術教育プログラム（AIとビッグデータ、IoTとロボティクス、ICTと情報セキュリティを社会人と共に学ぶ）として、社会人のリスキングを推進しており、令和3～5年度迄の科目履修者は延べ89名である。この取組を強化し、社会人の「学びの充実」を図る。 (e)ベトナムにあるVJIT（越日工業大学）と連携協定を結び、本学のプロジェクトデザイン教育プログラムを提供（教員養成を含む）しており、本学への編入学と大学院進学への道筋強化を図る。またスリランカ日本情報科学短期大学（LNBTI）と単位互換・連携協定を結び、令和6年度から情報工学科に3年次生3名が編入学する。今後、留学生受入の強化を図るために、英語で授業を行う国際教養理工学課程の充実を図り各専門分野で日本語と英語のバイリンガルな教育を推進する。	(a)令和8年度入学試験では、文系・理系を問わず適切な人材を選抜するため、推薦試験（公募）においては面接、調査書、学校長推薦書、志望理由書等により総合的に選考を行った。また、一般試験Aにおいては、情報デザイン学部、メディア情報学部、情報理工学部では数学・英語・国語の3科目から2科目を選択する個別学力試験を実施した。 (b)全学部において、女子学生を対象とした給付型奨学金を支給する「総合選抜（女子奨学生）」を実施した。また、新入生の子女子学生を対象としたキャリア支援プログラム「女子学生のためのキャンパスライフサポート（キャリアデザイン編）」も展開し、203名が参加した。これらの取組は、今後も継続的に実施していく計画である。 (c)地域の初等中等教育に対する教育支援を継続的に実施しており、令和7年度には70校（小学校：5校、中学校：10校、高校：55校）に対し、延べ103件の出張講義を行った。また、高等学校における教育DXの推進を支援する「DX/ハイスクール応援プログラム」を実施し、高大連携事例の紹介やセミナー・ワークショップ等を通じて各校との関係構築を進めた結果、新たに6校の高等学校と連携協定を締結した。今後、PBL教育や教育評価法に関する共同研究等を実施する計画である。 (d)全学部において、社会人が授業に参加し学生と共に学ぶ「社会人共学者」として、県内外34企業等から計48名が本学の正課授業に参画した。また、社会人が学生や教員と共に、AIやIoT等の先端情報技術を学ぶ「令和7年度情報技術教育プログラム（AIとビッグデータ、IoTとロボティクス、ICTと情報セキュリティ）」を開講し、延べ48名の社会人が受講した。今後もリカレント教育・リスキングの機会を提供し、社会人の「学びの充実」を図る。 (e)スリランカ日本情報科学短期大学（LNBTI）との連携に基づき、本学情報工学科に編入した留学生3名が令和8年3月に卒業し、うち1名が本学大学院工学研究科の情報工学専攻に進学予定である。さらに、国際化および留学生の学修支援の一環として、英語による授業提供を推進しており、国際教養理工学課程において6科目（線形代数学、PDⅠ、PDⅡ、未来学、感性とデザイン、サステナブルイノベーション）を英語で開講した。	

フォローアップ対象年度	令和7年度	大学名	金沢工業大学
-------------	-------	-----	--------

指摘事項等に対する対応状況を記載してください。

年度	区分	指摘事項等	対応状況
令和6年度	実施状況報告書留意事項	○当初に計画していた施設整備に遅れが生じている。今後の事業計画に支障がないように、事業の着実な実施に努めること。	令和6年能登半島地震の影響により当該施設整備は当初計画から遅延したが、建物の規模・機能・用途に変更はなく、完成時期は遅れるものの事業目的の達成に支障はない見込みである。現在は安全確保・品質維持に留意しつつ工事を進めており、今後の事業計画に支障がないように、着実な実施に努める。
令和6年度	実施状況報告書留意事項	○石川県能登半島地震による影響は考慮されるものの、R 7 年度収容定員充足率が0.33（情報デザイン学部環境デザイン創生学科）と著しく低くなっている。より効果的な改善策を新たに講じる等、収容定員の更なる充足に努めること。 ○石川県能登半島地震による影響は考慮されるものの、R 7 年度収容定員充足率が0.70（情報理工学知能情報システム学科）、0.68（情報理工学部ロボティクス学科）となっている。収容定員未充足の改善に努めること。	令和6年能登半島地震の影響を考慮しつつも、志願者数減少の主因は「学科名称・学びの内容に関する認知の浸透不足」にあると分析している。近年、高等学校における進路指導の早期化が進み、志望校選定の時期が前倒しとなっている。学部学科新設に伴い募集活動の開始時期が例年より遅れたことから、十分な訴求が行えなかったものと認識している。また、本学はオープンキャンパス参加者の出願率が非常に高く、オープンキャンパス参加者数の増加が志願者数確保において重要であると考えている。以上を踏まえ、志願者層の拡大と多様化を目指し、以下の施策を実施した。 ①高等学校訪問活動開始の早期化 本学では、高等学校訪問を担当する職員による地区連絡委員会を組織し、全国47都道府県すべてに担当者を配置している。これまで高等学校への訪問は春（6月以降）および秋（10月以降）の年2回のタイミングで実施していたが、前述のとおり高等学校における進路指導の早期化を受け、令和7年度からは4月より開始した。令和7年度は、年間を通じて延べ3,114校（春：1,687校、秋：1,427校）の高等学校を訪問した。また、訪問時の説明も、従来の資料配布を中心とした形式から、ノートパソコンやタブレットを用いた動画コンテンツの活用や、オープンキャンパスへの参加を促す説明へと転換した。 ②オープンキャンパスにおける学科別体験プログラムの充実 ・情報デザイン学部環境デザイン創成学科では、ワークショップ形式による学科体験に加え、企業担当者との座談会を実施し、大学での学びとキャリアの結びつきを明確化した。また、女子生徒の参加促進を目的に、同一フロアに在学生（女子学生）による女子向けの相談コーナーを設け、学びの内容や学生生活について直接相談できる環境を整備した。同コーナーには、32名（夏・秋合計）の女子生徒が参加した。 ・情報理工学部の3学科（情報工学科、知能情報システム学科、ロボティクス学科）では、学科別体験プログラム・展示スペースを同一フロアに集約し、学科間の学びの特徴や学問分野の関連性を比較しやすい構成とした。あわせて、夢考房プロジェクトの「RoboCup@Homeプロジェクト」等の展示を実施し、学科の魅力を訴求した。 ③KIT文理探究フェスの実施 高校生の進路選択時期の早期化・多様化を踏まえ、社会課題探究を起点に学科選択につなげる新たな学生募集イベントとして、「KIT文理探究フェス」を令和8年3月に実施した。同フェスには、122名（男子生徒75名、女子生徒47名）が参加した。本イベントを通じて、高校生が自身の興味・関心と本学の学びとの接点を見出す機会を提供し、春のオープンキャンパスへの参加促進を図った。 ④SNS・動画コンテンツによる情報発信の強化 紙媒体中心であった広報活動を見直し、大学ウェブサイトおよびSNSを活用した動画配信などの充実を図っている。オープンキャンパスへの参加促進のみならず、本学の学びの特色、女子学生への支援、金沢での学生生活、入試制度なども動画コンテンツとして作成し、大学ウェブサイト内への掲載だけでなく、SNSでの配信も実施している。 ⑤高等学校への出張講義等の実施 ・全国の高等学校に対して、分野別説明や入試説明、教員による出張講義などを継続的に実施しており、これらの機会を通じてオープンキャンパスへの参加促進を図っている（令和7年度実績：出張講義1,102名／83校、高校内説明会5,448名／409校、合同説明会1,394名／115会場）。 ・高等学校に対して、教員向けの研修や探究学習支援を継続的に実施している。令和7年度は、石川県および富山県の連携協定校において、情報デザイン学部および情報理工学部に関連するテーマによる探究活動の支援を行った。これにより、高校生が学問分野や研究の魅力に直接触れ、各分野に対する理解と関心を深める機会を提供した。 ・高等学校におけるデジタル等成長分野を支える人材育成を支援する取組として、全国の高等学校を対象に「DXハイスクール応援プログラム」を継続的に実施（第1回：令和6年8月、第2回：令和7年2月、第3回：令和7年8月）している。第3回では、DXハイスクールのニーズに応じて、高校教育における生成AIの活用法など、本学教員による体験講座や高校教員による教育DXの事例紹介を行い、28都道府県から160名の参加があった。プログラム等の参加を契機として、本年度新たに6校と連携協定を締結するなど、高大連携を進めている。 ⑥入試制度の多様化 令和8年度入試では、出身地域・企業との連携を担う人材育成を目指し、全国からの学びを支援する「総合選抜（Uターン型）」を新たに実施した。また、女子生徒の進学を支援する「総合選抜（女子奨学生）」の募集定員を拡充し、継続して実施した。さらに、「自己推薦試験」および「一般試験A・共通テストプラス（科目高得点型・大学院進学）」を新たに実施し、志願者の充実を図った。これらの入試制度の周知にあたっては、令和7年度オープンキャンパス（春・夏）において、保護者を対象とした入試・奨学生制度説明会を実施し、理解の促進を図った。 以上の取組を通して、令和7年度オープンキャンパス（春・夏合計）の全学科別体験プログラムの参加者数は3,266名（男子生徒2,585名、女子生徒681名）となり、前年度比140.0%となった。学科別では、環境デザイン創成学科151名（男子生徒94名、女子生徒57名）、知能情報システム学科557名（男子生徒491名、女子生徒66名）、ロボティクス学科148名（男子生徒131名、女子生徒17名）であった。今後は、入試結果の分析に基づき取組を検証し、募集戦略と広報施策の改善を図りながら、安定的な入学定員の確保に努める。

大学名	金沢工業大学
-----	--------

1. 本事業対象となる学部等の状況

＜合計＞

[illegible]

大学名	金沢工業大学
-----	--------

本事業対象となる学部等の個数	7
----------------	---

1. 本事業対象となる学部等の状況

<内訳>
(1)

改組内容	学部の新設（当該大学が授与する学位の分野の変更を伴わないもの）
学部学科名	情報理工学部情報工学科（工学関係）

[illegible]

1. 本事業対象となる学部等の状況

<内訳>

大学名	金沢工業大学
-----	--------

(2)

改組内容	学部の新設（当該大学が授与する学位の分野の変更を伴わないもの）
学部学科名	情報理工学部知能情報システム学科（工学関係）

[illegible]

1. 本事業対象となる学部等の状況

＜内訳＞

大学名	金沢工業大学
-----	--------

(3)

改組内容	学部の新設（当該大学が授与する学位の分野の変更を伴わないもの）
学部学科名	情報理工学部ロボティクス学科（工学関係）

[illegible]

1. 本事業対象となる学部等の状況

<内訳>

大学名	金沢工業大学
-----	--------

(4)

改組内容	学部の新設（当該大学が授与する学位の分野の変更を伴わないもの）
学部学科名	メディア情報学部メディア情報学科（工学関係）

[illegible]

大学名	金沢工業大学
-----	--------

改組内容	学部の新設（当該大学が授与する学位の分野の変更を伴わないもの）
学部学科名	メディア情報学部心理情報デザイン学科（工学関係）

[illegible]

1. 本事業対象となる学部等の状況

<内訳>

大学名	金沢工業大学
-----	--------

(6)	改組内容	学部の新設（当該大学が授与する学位の分野の変更を伴わないもの）
	学部学科名	情報デザイン学部経営情報学科（工学関係）

[illegible]

大学名	金沢工業大学
-----	--------

改組内容	学部の新設（当該大学が授与する学位の分野の変更を伴わないもの）
学部学科名	情報デザイン学部環境デザイン創成学科（工学関係）

[illegible]

[illegible]

大学名	金沢工業大学
-----	--------

3.大学（学士課程）の状況

年度				R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度
大区分	小区分	項目	単位																			
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	1,480	1,480	1,480																
		入学者数	人	1,418	1,407	1,444																
	その他の学期	入学定員	人	-	-	-																
		入学者数	人	-	-	-																
	入学者合計	入学定員(A)	人	1,480	1,480	1,480																
		入学者数(B)	人	1,418	1,407	1,444																
		入学定員充足率（B/A）	倍	0.96	0.95	0.98																
	収容定員等	収容定員(C)	人	5,920	5,920	5,920																
		編入学定員	人	0	0	0																
		在籍者数(D)	人	5,969	5,917	5,780																
		編入学者数	人	7	7	4																
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.01	1.00	0.98																

4.外部資金の状況（全学）

年度		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度
改組状況		申請～5年	申請～4年	申請～3年	申請～2年	申請～1年	申請	選定	増員											
項目	単位																			
外部資金獲得額	千円	1,166,762	1,219,975	1,321,947	1,448,749	953,035	894,933	993,973	956,720											

項目	単位	
申請時点の外部資金獲得額平均 （過去5年間に於ける各年度の外部	千円	1,236,228
本事業による助成金の額(F)	千円	2,117,500
フェーズ3の助成期満了時までに達 成する額(E+F×2.5%)	千円	1,289,166

特記事項

「2.理・工・農学分野の学位を授与できる学部等（学士課程）の状況」、及び「3.大学（学士課程）の状況」における令和6年度から令和8年度の編入学定員0人とは、若干名を意味している。
